



護岸は妙見大祭の観客席としても利用できるように階段状に施工



砥崎の河原が会場となる妙見大祭



親水性を考えた浅瀬を整備

37 砥崎の河原



水無川河川環境整備事業では、わが街、わが川、ふれあいの川をテーマにした五つのゾーンによる整備が進められている。「砥崎の河原」は、このうちの歴史・景観ゾーンとして整備が行われたものである。

この地区には妙見神を祭った八代神社があり、毎年秋には九州三大祭りのひとつである妙見大祭が行われ、笠鉾や神馬、中国から妙見神が背中に乗ってきたといわれる亀蛇(がめ)などが繰り出す。

水無川の川岸は、この妙見大祭の会場となっていることから、砥崎の河原は観客席として利用できるように階段状の護岸が設けられ、神馬や亀蛇が入ることに配慮した水深、河床構造となっている。

また、一部は、階段状に水が流れる場所として浅い河床に石を置くなど、子供たちの水遊びを考えたスペースもつくられている。

整備後は水辺の憩いの場として、また地域伝統の祭りの会場として利用されており、地域住民の身近な親水空間として活用されている。

DATA・BOARD ③7

- ①熊本県八代市妙見町
- ②延長：130m
- ③JR鹿児島本線八代駅から車で約7分、九州縦貫自動車道八代ICから車で約5分
- ④八代城跡公園、八代市立博物館、松浜軒、日奈久温泉、万葉の里水島ほか
- ⑤妙見大祭

